

平成 27 年度 学校法人 三幸学園 福岡こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 會田 隆太

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 春田 雅孝

1. 学校の教育目標

三幸学園は、昭和 60 年の開校以来約 30 年にわたり、『技能と心の調和』を教育理念に掲げ、教育を展開してきた。ここでは、社会への有益な職業人を数多く輩出することを目標に、“有益な職業人とは、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため日々研究・研鑽を続け、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物”と定義し、心豊かな人間性を育む教育に注力している。

この基本理念は、教職員に対しては、教職員手帳、「三幸学園の原点 あきらめない教育」に明記し配布しているほか、全教職員が一同に集う「ビジョンミーティング」、「サマーセミナー」においては、学園長及び理事長からの訓示の中で繰り返し唱え、各姉妹校で行われる年 3 回の全体会議にて共有化を図っているものである。また、学生に対しては、「入学式」や「スタートアッププログラム」において、校長や教職員からの言葉として示すとともに、本校独自のカリキュラム「成功の法則」の授業で使用する「夢のスケッチブック」に記載し周知を図っている。このほか、受験生、高等学校、保護者等に対しては、オープンキャンパス、高校訪問、保護者説明会などを通じて伝え、また、パンフレットに明記することにより学内外の周知に努めている。

2. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・人間力を高める教育の実践

「皆から信頼感謝され、こどもの未来を育む人材」を育成することを、目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考えている。

・挨拶指導、社会人コミュニケーションスキル向上

職員の朝礼での唱和、HR を使ったクラスでの挨拶指導など、教育の行き届きのきめ細かさを図ることにより、質の向上を実現できるよう計画している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	委員会評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	5
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	5
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

<現状および今後の方針>

- ・業界の動向やニーズを実習アンケートで得たデータを元に分析し、教務方針・目標に取り入れている。
- ・体系化された教育理念、ビジョン、ミッション、人材育成方針を教務指導目標に取り入れ、具体的な指導を計画し、取り組んでいる。
- ・学生へ理念浸透ポスターを全教室へ掲示、新入生への研修時に浸透させるための内容を実施している。
- ・継続して『教育理念、人材育成像』をパンフレット等を使いながら内外に浸透していく事で学校の教育特徴を創り上げていく。
- ・引き続きHPや掲示物や教員によるたび重なる積極的な外部、保護者への目に留まる掲載と呼びかけを継続する。
- ・園、施設との関係性を深め、業界の動向や求める人材像を正確に捉えて学校教育に反映していく。

<学校関係者評価委員会コメント>

- ・最近、あいさつやコミュニケーション力の向上が見られ、専門技術の習得を期待できるようになってきているが、リーダー的な存在がいないので、様々な経験を通して統率力を身に付けてほしい。
- ・現場で求められる技術、学んでおいた方が良かった内容はこどもを惹きつける能力・手法(手遊びなど)
※手遊びを授業の前に取り入れるなど、実践の場を多く設けて欲しい
- ・設定保育において、3パターン以上の想定を準備しておいたほうが良い
- ・こどもたちに体育を教えるにあたって、必要な知識の習得(年齢に応じた可動域など)
⇒授業を担当する教員も、実習の巡回に帯同し、実践的な授業に生かしていきたい

(2). 学校運営

【評価項目】	委員会評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	5
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	5
人事、給与に関する制度は整備されているか	5
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	5

業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	5
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5

<学校関係者評価委員会コメント>

- ・HPにて自己評価及び学校関係者評価報告書として学校の教育活動を情報開示をしている。
- ・三幸学園のスケールメリットを活かし、姉妹校間で情報や資料を共有し業務効率化を行っている。
- ・各雇用形態に準じ就業規則の整備し、遵守を徹底し、業務の効率化を積極的に推進する。
- ・継続的に健全且つ安定的な学校運営を行うと共に、各教育取り組みや活動については積極公開していく。
- ・本部機能との連携を密に人事・労務・就業環境の整備に努め、業務の効率化を積極的に推進する。
- ・コンプライアンスDVDを作成し、職員で閲覧しコンプライアンスの理解を深める。

(3). 教育活動

【評価項目】	委員会評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	5
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	5
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	5
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	5
授業評価の実施・評価体制はあるか	5
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	5
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	5
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	5
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

<現状および今後の方針>

- ・年間の実習スケジュールの明確化し、単位実習だけでなく自主実習にも多く行かせている。
- ・産学連携の一環として、JR 博多シティや海の中道海浜公園、各保育園・幼稚園と提携して、継続的なボランティア活動を行っている。
- ・関連分野の方にお越しいただき、現場視点からの講話を年に1回実施している。

- ・カリキュラムを体系化した一覧を職員に配布し、教科間の連動などを促していく。
- ・担任と教科担当が2名体制で実習就職に関わる授業に入り、教員間の認識の統一、学生一人一人にきめ細かい指導を行っていく。
- ・特に実習前後の指導体制・内容について学校関係者評価委員及び実習等に関連する企業・関係者様のご意見を頂戴しながら教育の質実向上に努める。
- ・現場の実習指導担当者に実習指導パートを、人事ご担当者又は園長先生に就職指導パート監修してもらいカリキュラムを作成していく事など業界との連携を踏まえた内容を検討していく。

<学校関係者評価委員会コメント>

- ・学生を巻き込んだ取り組みとして博多の街づくり推進協議会に加盟するとアイデアが増える可能性がある。
- ・授業で役に立った内容として、リトミックやピアノでもらった楽譜は現場でも良く使用するのでとても役に立っている
- ・今後学校が求めるレベルの提示だけでなく、実際の現場をイメージした授業展開を取り入れるべき
- ・就職フェアなどに参加するなどして情報収集をし、自分が共感できる保育ができる場所を探して欲しい
- ・実習において求めるレベルを提示してもらえたら、園側としても対応しやすい

(4). 学修成果

【評価項目】	委員会評価
就職率の向上が図られているか	5
資格取得率の向上が図られているか	5
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

<現状および今後の方針>

- ・本校は開校4年目の学校である為、卒業生が少ない実情がある。その為、実習先からのご助言や実習評価および姉妹校との連携を密に、本校の教育が現場でどのような評価であるか情報収集していく。
- ・各種教育アンケート(授業・実習・卒業生)を実施し、課題発見と具体的な施策検討を進めている。
- ・就職先が求める人材像の把握のため教職員の積極的な施設、園への訪問を実施。現場での人材ニーズを把握し、それに合う教育を行っている。
- ・退学率の低減のために、保護者との連携を強め、教員間でも情報共有と連携したサポートを行っている。
- ・各園との信頼関係づくり、求人の新規開拓のための訪問を福岡県内中心に積極的に行う。

<学校関係者評価委員会コメント>

- ・実習での様子が就職・求人の獲得に繋がり、またその方がミスマッチはない
- ・園では卒業生に母校で話をしてもらいたいという依頼を受けることもあるので、ぜひ積極的に卒業生を活用してほしい

(5). 学生支援

【評価項目】	委員会評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	5
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	5
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	5
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

＜現状および今後の方針＞

- ・保護者に定期連絡を行い、連携を図っている。
- ・個々で学費の支払いの相談を受け、一辺倒ではなく様々な支払いのケースに対応している。
- ・災害や危機管理マニュアルを全教員で共有し、緊急時に対応できるようにする。
- ・同窓会のサイト、HPなどを利用して卒業生の相談窓口や集まる機会などを立ち上げる。

(6). 教育環境

【評価項目】	委員会評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	5
防災に対する体制は整備されているか	5

＜現状および今後の方針＞

- ・避難経路マップを掲示し、年度初めに学生への周知を行う時間を設定している。
- ・海外研修を年度末に実施し、海外の保育を学ぶ機会を提供している。
- ・継続して校舎および設備については保守管理企業様と円滑な連携の上で安心・安全な教育環境の維持向上に努める。
- ・今後は防災啓蒙・避難マップの配布を検討し、さらなる防災意識を高めていく。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	委員会評価
学生募集活動は、適正に行われているか	5
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	5

＜現状および今後の方針＞

・教務(教育成果)と広報(募集活動)の連動を常に意識し、高校生・社会人・留学生等の多様な学びのニーズに応え健全な学校経営の基盤となる学生募集に尽力していく。また、近年は学費支払いが困難である事を理由に進学を辞退する学生も多くなっている為、特に保護者様に対して入学説明会やパンフレット等を通じ明確な学費サポート体制や学納金の総額をわかり易く伝える事に努めていく。

・地域で設置されている広報室と連携しながら、対外折衝・高校への説明会・オープンキャンパス等の機械を通じて魅力を正確に伝えられる様に計画的に活動を展開している。

<学校関係者評価委員会コメント>

- ・学費を考慮し、2年課程を選択したが、3年間かけて学べると良かったと思う
- ・3年課程の方が落ち着いている印象はある

(8). 財務

【評価項目】	委員会評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
財務について会計監査が適正に行われているか	5
財務情報公開の体制整備はできているか	5

<現状および今後の方針>

社会的なニーズに即した学校の設置・増加に伴って、今後は更なる業務の多様化に対応した体制強化と整備が必要と考える。今後は、制度に対応した合理化、システム化の推進に取り組んでいくと共に、規模の増加に対応するための人材の育成

<特記事項>

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性

と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	委員会評価
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	3

<現状および今後の方針>

- ・自己点検／評価は学校関係者評価委員を通じて問題点の明確な洗い出しと具体的な改善策を検討する。また、平成 27 年度より学校ホームページ等を通じ評価の公開を実施していく。

<特記事項>

- ・法令／コンプライアンスの順守と個人情報の保護・管理の徹底に努めている。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	委員会評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	5
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	5

<現状および今後の方針>

- ・学内を利用し、保護者への子育て支援の講座、子どもに向けた遊びの提供を毎月1回実施している。
- ・学外のボランティアにおいても科目の単位として設定し、すべての学生が規定時間のボランティアを行うことを必須としている。
- ・継続して医療機関・施設へのボランティア参加などを推進し、主に就職担当者中心に実習以外での学びの場を整備していく。

<学校関係者評価委員会コメント>

- ・在学中は積極的にボランティアに参加しており、その場で得られる情報はとても有意義だった
⇒求人の際にボランティアの募集についてもお伺いをするといい。
- ・ボランティアは気軽に参加して欲しい
- ・子育て支援のボランティアは多く需要がある